

浦賀駅前周辺地区活性化事業 コンセプトブック

令和6年11月29日

12月27日時点修正版

横須賀市

1. コンセプトブックとは

浦賀駅前周辺地区活性化事業コンセプトブック（以下「コンセプトブック」という。）は浦賀駅前周辺地区活性化事業（以下「本事業」という。）において横須賀市（以下「本市」という。）がパートナー事業者（以下「事業者」という。）と同じ想いをもちながらまちづくりを進めていくために大事にしてほしいことや考えてほしいことをまとめました。コンセプトブックを通じて本市の想いを事業者に共有し、本市と事業者が連携してまちづくりを進めてまいります。

2. 全体方針

浦賀の地はペリー来航の場所であり、日本の造船の発祥の地となった場所で、誰もがその名を知る、日本近代化へのターニングポイントとなった場所です。

これをきっかけに開国後は浦賀船渠の設立を通じて日本の近代化に大きく貢献してきました。

明治32年に建造されたレンガドックは、平成15年に閉鎖されるまで1,000隻以上の船の製造や修理を行ってきた歴史があり、これまでに多くの方々が造船業に関わりを持つとともに浦賀のまちは発展してきました。



一方で、近年は産業の撤退や人口減少などまちの衰退が課題であり、その影響を最小限に抑えるために周辺地域および横須賀市内全体に活力とにぎわいを創出する拠点としての役割が求められています。この浦賀には、日本で唯一現存するレンガ造りのドライドックがあり、その貴重な歴史的価値を尊重しつつ、新たな集客交流拠点として世界に開かれた「浦賀」としての都市拠点の形成を図ります。

我が国における「開国の地」としてのこれまでの歴史や伝統を踏まえながら、将来にわたって国内外から多様な観光客が訪れる、地域と共に成長する都市拠点の形成を目指し、次のとおり全体方針を設定します。

新しい都市拠点の形成による「第二の開国」の実現



3. 本事業で目指す方向性

全体方針に示した「第二の開国」を目指して、本事業で目指すべき方向性について、以下のとおり定めました。

【目指すべき方向性】

① 海から世界につながる浦賀

浦賀は、その沖にペリーが来航して以来、海洋を通じて日本が世界につながるきっかけとなった地です。浦賀湾から三浦水道を通じ、太平洋、さらに世界へつながる要に位置する海洋都市＝横須賀市において、海洋都市としての特徴や資源を最大限に活用しながら世界へ開かれ、情報発信できる拠点の形成を図ります。

② 歴史を継承し未来を切り拓く浦賀

浦賀には、明治期より大型船舶の造船・修船を行う造船拠点が設置され、海外からの新しい技術や文化も取り入れながら、ものづくりの拠点として我が国の近代の発展を支えてきた先進気鋭の地です。これまでの浦賀の歴史や伝統を継承しながらも、これまでにない新たな価値を創出し、未来志向の観光拠点形成を図ります。

③ 多様な交流により国内外に開かれた浦賀

我が国における開国の地である浦賀には、港湾の整備や造船所の設置等を通じて、国内外から多くの人々が集まり、技術が集積し、産業が根付いてきました。この地に根付いた市民の暮らしや産業ともつながりながら、多様な交流・集客が生まれる、国内外に開かれた拠点の形成を図ります。

【取組方針】

	海から世界に つながる 浦賀	歴史を継承し 未来を切り拓く 浦賀	多様な交流により 国内外に開かれた 浦賀
第一の開国 における 浦賀の役割	ペリー来航以来、 日本が世界に 開かれるきっかけと なった地	造船所の設置等、 外国からの新しい 技術や文化が集 積した地	国内外から人々 が集積し、人々の 暮らしや産業が根 付いた地
第二の開国を 実現するた めの取組方針	海洋都市としての特徴や 資源を活かし、 「世界とのゲート ウェイとなるまち」	浦賀の歴史や文化を 継承しつつ、新たな価 値に転換・創造し、 「観光で賑わいが 生まれるまち」	「暮らす」「働く」 「食べる・買い物する」 など、地域の人から外 国人まであらゆる立場 の人が集い・行き交う、 「ワクワクする魅力 的なまち」
イメージの 一例	ウォーターフロント施設 船舶の利活用 船舶関連施設 マリンレジャー施設など	レンガドックなど 歴史資源や海を 活用した 集客施設など	宿泊施設 商業・飲食施設 集合住宅 交流施設など

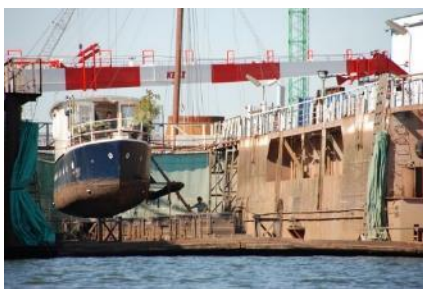
4. 実現したいイメージ案

海から世界につながる浦賀

ウォーターフロントの魅力を活かしたにぎわいづくり

【イメージ案】

- ・ 浦賀湾は、東京湾の湾口部に位置し、首都圏への海のゲートウェイとしての役割を担う
- ・ 恵まれた立地環境を活かすため、海の玄関口としての機能を強化し、船舶の受け入れや修理など、海辺の空間を活かした機能を導入 等



水辺を活かした親水空間の創出

【イメージ案】

- ・ 市民から観光客まで多くの人が水辺に集い、親しみ、くつろぐことができるオープンスペースの整備
- ・ イベントやアクティビティ等様々な活動が可能な空間とし、親水空間を活用したにぎわいの創出 等



水辺のにぎわいづくり

【イメージ案】

- ・ マリンスポーツやアクティビティ等、水辺を活用した観光コンテンツを導入し、新たな観光客層を開拓 等



レンガドック等の歴史的・文化的資産の活用

【イメージ案】

- ・ 日本で唯一のレンガドックであり、浦賀の造船の歴史を継承する大切な資源であるレンガドックの保存
- ・ 集客力のある交流拠点として新たな価値を与えて活用 等



歴史の継承と発信

【イメージ案】

- ・ 浦賀奉行所の設置、ペリー来航、造船所の設置と、近代日本発祥の地としての歴史の発信と継承
- ・ あらゆる世代が楽しめる魅力的な集客・交流の拠点となる施設を整備 等



周辺の観光資源との連携

【イメージ案】

- ・ 横須賀全体の観光地としての価値を高めるため、ルートミュージアムをはじめとした対象地周辺に点在する歴史や文化、自然等の観光資源との連携 等



観光拠点としての新たな魅力の創造

【イメージ案】

- ・ ウォーターフロントの特性を活かした新しい魅力の創造
- ・ 地域全体の価値向上につながる宿泊施設や観光拠点としてのコンテンツ等、観光の質を高める魅力的な機能を導入し、交流人口の増加を目指す 等

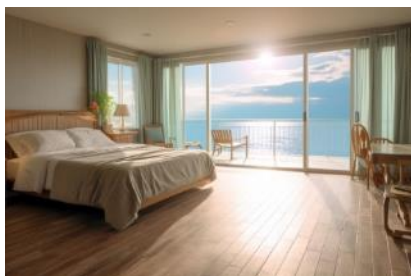


多様な交流により国内外に開かれた浦賀

多様な機能の集積によるにぎわいと交流機会の創出

【イメージ案】

- ・ 商業、業務、医療、福祉、文化、居住等の様々な都市機能の集積による各機能間の交流の創出
- ・ 多様な人々が集まり、交流やにぎわいが生まれる空間を整備
- ・ イベントの開催等にぎわいや交流を促す取り組みの実施 等



浦賀駅周辺や周辺市街地との連携

【イメージ案】

- ・ 浦賀駅や周辺市街地からのアクセスを確保するため、歩行者動線を整備し浦賀駅から海へとつながるアプローチ空間を創出
- ・ 駅前渋滞緩和と東・西浦賀間のアクセス性の向上
- ・ 次世代モビリティを導入し、対象地内の回遊性向上を図る
- ・ 周辺市街地の回遊性向上に繋がる取組の促進 等



周辺市街地との景観の調和

【イメージ案】

- ・ 浦賀湾、市街地の緑地、住宅地等の景観が広がる周辺市街地の景観への配慮と調和 等



これまでになかった新たな技術・サービスの導入

【イメージ案】

- 浦賀の新たなまちづくりを先導し、インパクトのある技術やサービスの導入 等



官民が連携した防災対策

【イメージ案】

- 災害に強いまちづくりを目指し、防災機能を強化
- 災害時に迅速かつ安全に避難できるルートを確認し、防災訓練を定期的の実施 等



脱炭素に向けたまちづくりの実現

【イメージ案】

- 施設全体で省エネルギー化を図るとともに、再生可能エネルギーの導入等、脱炭素化に向けた取組の積極的な実施 等

